

2003.7.24

みんなで

こねこねの輪

金田 みちよ

(クレイアーティスト)

いよいよ、私が主宰する「こねこねランド」夏恒例のイベント、親子ねんど教室がスタートする。

十七年前にアメリカに移住、独学でクレイ(粘土)アーティストの世界を作り、六年前日本に帰国した。十二色のカラフル粘土を開発し、全国各地でイベントや教室を開きながらの普及活動。コンピュータやテレビゲームが浸透する中、親子のふれ愛、や心と心のコミュニケーションの大切さを、粘土を道具として伝えている。

みんな、楽しく遊んでいるときは心がオープン。作品は

遊子 彩筆

どれもオリジナルなので、上手下手な関係ない。「わあかわい」「すごい」の褒め言葉だけ。だからこのときに、しつげや伝えたいことなど話し合おう、スムーズに伝わる。誰でもしかられるのはいや。ならば、せめて「こねこねランド」は褒める材料、楽しい思い出の場として活用してもらえたらと思う。さて最近、もう一つの遊び場を長野の鬼無里(きなし)村に増やした。私の知人が、二年ほど前に東京から長野に移住し、無農薬の野菜、米作りに挑戦して成功しているのだ。自然の中で田畑(地球)をこねこねしている。道具は違つがお互い同じ目的意識を持っているので、一緒に作業していて楽しい。先日、田植えを体験させてもらった。きつと秋には、おいしい玄米の(金シャリ)(金米)ができるだろう。(和光市在住)

2003.8.28

もつと遊ぼう!

金田 みちよ

(クレイアーティスト)

今まで、たくさん親子に「ねんど教室」でレッスンしてきた。イベントをやる、一カ月で約二万人の人たちにクレイアーティストの世界を伝授している。

作品を見て驚くのは、親子そっくりなこと。だれが作ったか、名前を聞かなくても分かるくらい。子どもは親の背中を見て育っているんだな...と、つくづく思うことがある。

親は手本・見本となるか、反面教師となるか。ならば、手本・見本となる生活スタイルを持ちたい。アメリカでは子どもの教育

遊子 彩筆

育しつけはほめて伸ばす。日本は、人前で自分の子どもをほめることはあまりしない。子どもにとっては、ちつとも面白くない。ほめてもらえたら、喜んで何でもやりたがるものなのに。まず大人が個性の身を摘んでしまうことが多いので、気を付けたいものだ。

子どもものしつけ教育は夫婦の共同作業のはず。しかし男性は会社にかける時間が長く、母親ばかりに任せがちである。バランスが悪いと子どもに与える影響も...

親子は専属の遊び仲間なのに、どうも現代の社会のしくみは、そうさせてくれない。

みんな、せつかくの家族なものになせかしら、よくけんかしてしまつ。きつとストレスがたまっているから。もつとみんなで仲良く、遊ぶ時間を増やしたら解決するのでは? (和光市在住)

2003.9.25

ユニークな

風習の違い

金田 みちよ

(クレイアーティスト)

アメリカ生活十一年間を体験して、ちよつとユニークな風習の違いに気が付いた。

日本では「白黒」と言うが、アメリカでは「ブラック&ホワイト」、「左右」は「ライト&レフト」、「男女」は「レディー&ジェントルマン」。

日本と表現が逆なのだ。各国、個人の風習・常識もそれぞれ違う。

ある日本人女性がアメリカで、会社を辞めるとき「私、結婚して彼の面倒を見るので会社を辞めます」つまり、日本ではごく当たり前の結婚退職。「おめでとつ」と言われると思つた彼女。ところが、それを聞いたアメリカ人の同僚は「あら、彼の面倒を見る

遊子 彩筆

きやいけないくらい体が不自由なの。大変ね。同僚から同情されてしまった結婚話。

ほかにも、日本では「本は明るい所で読みなさい」と言われる。アメリカの家庭は間接照明が多いので、友人に「本を読むとき天変ね」と言つと「暗い所で本を読んで目を鍛えなさい」と言われている。「また「お腹が痛いときはソーダを飲みなさい」と言われている」そーだ。

所(国・家庭・学校)変われば、風習・常識も全て逆になることもある。ならば、自分の考えを正論と思つて相手に押し付けても無理がある。人それぞれ、学んだことが違つたから、一度その人の話(心)をキャッチする心の余裕があれば話も丸く収まる。(まる) (和光市在住)

地球と人間

との調和

金田 みちよ

(クレイアーティスト)

今まで約二十年間ずっと走り続けてきた私が、ようやく四十歳にして、立ち止まり、ゆっくりの周りをみる事ができた。二十代はマスコミ人間で、新聞、テレビ、雑誌、ラジオに携わる仕事をし、三十代はその裏面にアーティストになった。夢は集中して強くイメージすればかなう。さて、四十年代は少し、心身ともにバケーションを。それから出発しよう。

さうそうく念願かない、ただ今、新潟の知人宅で体のメンテナンスをしている。場所はスキー場で有名な妙高高原のすぐ近く。山、湖、海、川、池、広い空、満天の星空……。都会では得られないものが、

遊子 彩筆

ここにはすべてそろっている。「環境はお金では買えない」と常に知人は言う。

彼女は三十年間都会暮らしをし、今は実家の新潟へUターン。民家を購入し、自給自足できる分の畑で無農薬野菜に挑戦している。私と同じ意識を持つ先輩にたまたま、田舎での生活をレッスン中。地球という学校で。

毎朝、五時半起床。山へわき水を運び、その道中にヌカゴ、山アブドゥクルミ、クリを拾いながらの森林浴。食材はすべて無農薬の旬のものを調達し、おいしくいただいている。時間に追われることなくまことに、晴耕雨読の世界だ。

人間本来の生活スタイルに戻ると、心と身体はうまくコミュニケーションしはじめた。(和光市在住)

楽しいパーティー

金田 みちよ

(クレイアーティスト)

毎年、自分の誕生日はレストランを貸し切りにして、派手にパーティーを開催してきた。多いときは三日間連続で、あちこちで、いろいろなメンバーと乾杯。もし乾杯するたびに年が増えたとしたら、スゴイ年齢になっているかも？とにかくパーティーと乾杯が大好きな私。

さて、今年は趣向を変えて自宅アトリエで、ポットラック(持ち寄り)パーティーを企画。都合のいい時間に参加できるよう、お昼から夜中までオープンのお入り自由。タイムINGKよ入れ代わり立ち代わりするので、メンバーも食材も変化があつて楽しい。まずスタートは、パン作りの名人に手作り和風シサのレ

遊子 彩筆

ッスンを受けながら、パーティー料理をみんな準備。レシレはとても簡単だけれども気軽にできるので、ぜひ、トライしてみ。

小麦粉にオリーブ油と水、塩を加えて、よくよくこねこねする(今回は食材をこねる。いつも粘土をこねたり、土をこねたり)。ペースを丸くのはして、おタヌを塗る。その上に、スライスした生シイタケ、長ネギ、ピザ用チーズをのせて、オーブンで焼くだけでOK。夜は、アメリカ帰りの「心友」によるたぐさんの居酒屋料理に、ナント、彼女のステキなベリータンスのショータイム付き。

ちょっとユニークなパースデーパーティーとなった。とても思い出深く、みんなのあったかいハートに大感謝！(和光市在住)

星に願いを

金田 みちよ

(クレイアーティスト)

最近、願いごとが叶(かな)うのが早くなってきた。

先日「テレビに出演したいな」と思った二、三分後に「笑っていいとも」出演依頼の電話がかかってきた。その四日後にはしっかりテレビに出演し、おまけに増刊号でも再登場した。ほかに「ケーキを食べたいな」と思うと、友だちがケーキを持って遊園に来てくれたり。

とても簡単なコツを伝授しましょう。イメージすることが現実化されるよう、わくわくするような楽しい夢を描くことです。

心配性の人は、不安、心配になったら「ジュッジュッ」とイメージで消すことをお勧め

遊子 彩筆

します。くれぐれも悪い方にイメージしないよう気を付けて……。

とにかく、自分を信じることからスタートしてみ。ピュアな状態でいることも大切。つまり、素直が一番という。そして「愛と感謝」あたりまえのことですが、つい忘れがちになってしまうので……。

自分の行動に愛があるか。この世に自分が生まれたことを感謝しているか。世界中で共通していることは、自分たちには両親がいるので誕生することができた、ということと、人生をみな、同じ地球という星をステーションとして成長しているという事です。自分を信じて愛して、楽しい人生を送ってください。

(和光市在住)